

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 18 日現在

機関番号：12102

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2012～2013

課題番号：24653134

研究課題名(和文)「木育」を活用した多世代交流に基づくコミュニティ・エンパワメントプログラムの開発

研究課題名(英文)Development of Intergenerational Community Empowerment Program with Wood Education

研究代表者

安梅 勅江 (Anme, Tokie)

筑波大学・医学医療系・教授

研究者番号：20201907

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,800,000円、(間接経費) 840,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、木育を活用した多世代交流に基づくコミュニティ・エンパワメントプログラムを開発することを目的とした。木育プログラム実施による評価とフォーカス・グループインタビューを用い、臨床的重要性と統計的妥当性を加味しながら有効な項目を抽出して体系化し、コミュニティ・エンパワメントプログラムを作成した。プログラムを実践の場で活用し、有効性を確認した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to develop and evaluate the evidence based intergenerational community empowerment program with wood education. Identifying effective items by action research and focus group interview, along with practical and statistical validation, "Intergenerational community empowerment program with wood education" was emerged. Evidence of effectiveness was confirmed along with utilization in practical community.

研究分野：社会福祉学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉

キーワード：コミュニティ・エンパワメント 木育

1. 研究開始当初の背景

- (1) 「木育」は、木のおもちゃや生活道具などを通じて自然や環境を大切にすることを育む生活教育の新たな展開として、昨今大いに注目されている。
- (2) 「木育」の効果をコミュニティ・エンパワメントとして科学的に検証する取り組みは国内外で皆無である。
- (3) 今後の「木育」の普及に向け、効果の根拠に関する早急な検討が求められる。

2. 研究の目的

- (1) 本研究は、「木育」を活用した多世代交流に基づくコミュニティ・エンパワメント・プログラムの開発を目的とする。
- (2) 子どもと高齢者など、多世代が自然の中で伝承遊びや生活道具の創作など「木育」を通じて交流する機会を作り、コミュニティ・エンパワメント・プログラムとしてその効果の科学的な根拠を得る。
- (3) 少子高齢化時代のコミュニティの活性化とともに、日本国土の7割近くを占める森林や地球環境維持への関心を高め、生涯におよぶ生活教育の充実を意図するものである。

3. 研究の方法

- (1) 「木育」を活用した多世代交流コミュニティ・エンパワメント・プログラムのモデル開発

国内外の「木育」プログラムの開発過程、内容、評価の系統的レビュー、フォーカス・グループ・インタビューにより得られた情報、プログラム実施によるプロセス評価、プログラム実施のアウトカム評価、を総合的に分析し、統計的妥当性及び臨床的重要性を加味しながら、プログラムのモデルを開発した。

- (2) 「木育」を活用した多世代交流プログラムの効果に関する科学的な根拠の提示

開発した評価指標を適用し、対象の年齢、性別、身体機能などの特性別に、プログラムの精神面・身体面への効果とその関連要因を科学的な根拠として提示するとともに、介入研究によるプログラムの妥当性を明示した。

- (3) 「木育」を活用した多世代交流プログラムの普及化

地域や施設機関において、「木育」プログラムを用いた多世代交流を促進するため、具体的な活用につなげるさまざまな形の実践例を

検討した。

4. 研究成果

- (1) 「木育」効果の測定法の検討

「木育」効果は、生涯発達、すなわち子どもの育ち、あるいは高齢者の機能維持に沿って検討する必要がある。したがってコホート研究を用いた前向き研究が必須である。

人間は子ども期から高齢期まで、日々周囲の環境に働きかけながら、自ら成長していく。時間軸に沿って、どのように変化したかを捉えて初めて、本来の効果が測定できる。変化の測定には、各種の客観的な指標を用いることが求められる。

その一例として、子ども、および大人を対象として効果評価をする場合、下記の指標が有効である。

子どもの特性

「発達チェックリスト」「気になる行動チェックリスト」など

大人の特性

「育児環境指標」「ストレス」「社会関連性」「日常生活動作」など

かかわりの観察

「かかわり指標 (IRS)」「かかわり指標児童用 (IRSC)」「かかわり指標成人用 (IRSA)」など

描画の特徴

「描画法」など

- (2) 木育実践の効果

子どもの特性

子どもの発達状態や気になる行動があるかどうかに分けて、育ちに沿って経年的に検討した。その結果、発達がゆっくり傾向や、気になる行動などのある場合に、より大きな効果が示された。保育における木育の活用は、子どもの心を癒すとともに、子どものさまざまな能力を引き出す可能性がある。

大人の特性

子どものかかわりが乏しい、子どもへの不適切な対応、大人のストレスが高い、などの場合に、大きな効果が示された。

大人のストレスが高く、家庭でのかかわりが乏しい状況であっても、木育を継続的に実施した結果、かかわりが上昇傾向にあることが示された。

たとえば「子どもをたたいた回数」は、木育後に減少する傾向がみられた。また、子どもと一緒に歌を歌う機会、子どもを連れて公

園に行く機会、同年齢の子どもを持つ友人との交流の機会、子どもをたたく頻度、育児に対する自信、育児ストレスの各項目において、いずれも配慮の必要な人数が減少した。

子育てについて相談する相手としては、配偶者や友人、保育士に相談する人が増加していた。

木育への参加を通じて、子どもと大人がともに木に親しむ時間を共有したことにより、家庭で子どもに接する機会や、「たたく」以外の接し方を選ぶ機会の増加につながった可能性がある。木育が楽しむひとときとなり、望ましいかわりを増加させた可能性がある。

子どもと大人のかかわりの特徴

木育の後には木育前に比べて、かかわり指標の子どもの共感性、主体性、応答性、感情制御、運動制御、大人の主体性発達、共感性発達、認知発達、社会情緒発達への配慮、関係性総合評価の得点が増加した。

木育を体験したことで実施後の子どもと大人の調和の取れた関係性の形成を促進し、子どもの社会能力発達を促す可能性を示唆している。

木の絵の描画の特徴

木育の後には木育前に比べて、描画の色、面積、アイテムが増加した。木育を実施しない子どもと比較して変化は大きく、木育の効果による変化の可能性が示唆された。

高齢者の社会関連性の向上

木育や木質化により、高齢者の日常生活における他者とのかかわりが活性化した。

(3)木育を用いたコミュニティ・エンパワメントへの展開可能性

木育の継続により、子どもから高齢者まで、生涯発達に沿ってさまざまな効果の得られることが根拠として明らかにされた。

エンパワメント環境とは、ひとりひとりの力を最大限に引き出し、生き生きとした生活をはぐくむ環境である。エンパワメント(活生力、絆育力、共創力)とは、力を引き出す、元気にすること。人と人、人と自然、人の過去と現在、そして未来への「きずな」を育む力をつむぐことである。

木育は、コミュニティ・エンパワメントに向け、地域における子どもから高齢者まで、すこやかな生涯発達を支える環境づくりの有効な手段のひとつと位置付けられる。

今後さらに、木育を活用するためのマニュアルや、人材づくりなど、だれもが活用した

くなる仕組みづくりが求められる。またさまざまな対象にどのように提供することが望ましいのか、研究の蓄積が必要となる。

根拠に基づく成果を活かしながら、多世代交流型コミュニティ・エンパワメントを支える技術として、木育の積極的な活用が大いに期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

Anme T, Kawashima Y, Shinohara R, Sugisawa Y, Watanabe T, Tokutake K, Mochizuki Y, Morita K, Tomisaki E, Tanaka E, Wu B, Nanba M, Matsumoto M, Sugita C: Social Interaction and Dementia Prevention: Six-year Follow-up Study, Public Health Frontier, 2(2), 2013, 109-113, DOI:10.5963/PHF0202008

査読有

Mochizuki Y, Gan-Yadam A, Anme T. Effects of Wood Education in a Nursery School with a Focus on Changes in Children and Caregivers' Drawings, Journal of Psychology and Behavioral Science, 3(6), 2013, 145-150, 査読有
安梅勅江, 木育は本当に効果があるのか? -科学的な根拠と今後の課題-, 芸術教育, 92, 2013, 14-16. 査読無

Anme T, Behavior changes in older persons caused by using wood products in assisted living, Public Health Research, 2(4), 2012, 106-109, DOI: 10.5923/j.phr.20120204.07 査読有
安梅勅江, 富崎悦子, 望月由妃子, 徳竹健太郎, 渡辺多恵子, 田中笑子, 篠原亮次, 杉澤悠圭, 呉柏良, 難波麻由美, 松本美佐子, 杉田千尋, 松井勅尚, 多田千尋: 子どものすこやかな発達と子育て支援への「木育」効果の活用可能性, 厚生
の指標, 59(1), 2012, 21-25, 査読有

〔学会発表〕(計8件)

Anme T, Wood Products Improve the Quality of Life of Elderly People in Assisted Living, Geoscience conference, 2013.6.21, Albena Convention Center, Albena (Bulgaria)
Anme T, Intergenerational activities for Healthy Longevity: Plasticity, Environment, and Culture, Systems Sciences in Health Social Service, 2013.6.12, Jonkoping University,

Jonkoping(Sweden)

富崎悦子, 田中笑子, 渡辺多恵子, 望月由妃子, 徳竹健太郎, Amarsanaa Gan-Yadam, 松本美佐子, 杉田千尋, 有岡栞, 安梅勅江, 木材利用効果の評価 - 高齢者ケア施設における木材利用効果とニーズに関する検討, 日本保健福祉学会大会, 2012.10.25, 広島.

渡辺多恵子, 田中笑子, 富崎悦子, 望月由妃子, 徳竹健太郎, Amarsanaa Gan-Yadam, 松本美佐子, 杉田千尋, 有岡栞, 安梅勅江, 木材利用効果の評価 - 高齢者福祉施設利用者の行動観察による評価 -, 日本保健福祉学会, 2012.10.25, 広島.

徳竹健太郎, 渡辺多恵子, 田中笑子, 富崎悦子, 望月由妃子, Amarsanaa Gan-Yadam, 松本美佐子, 杉田千尋, 有岡栞, 安梅勅江, 木材利用効果の評価 - 高齢者福祉施設利用者と専門職へのSD法を用いた印象評価 -, 日本保健福祉学会大会, 2012.10.25, 広島

田中笑子, 富崎悦子, 渡辺多恵子, 望月由妃子, 徳竹健太郎, Gan-Yadam Amarsanaa, 松本美佐子, 杉田千尋, 有岡栞, 安梅勅江, 木材利用効果の評価 - 高齢者福祉施設利用者の行動観察による評価 -, 日本保健福祉学会大会, 2012.10.24, 広島.

望月由妃子, 渡辺多恵子, 田中笑子, 富崎悦子, 徳竹健太郎, Amarsanaa Gan-Yadam, 松本美佐子, 杉田千尋, 有岡栞, 安梅勅江, 木材利用効果の評価 - 高齢者福祉施設利用者の描画による評価 -, 日本保健福祉学会大会, 2012.10.24, 広島.

望月由妃子, 富崎悦子, 田中笑子, 徳竹健太郎, 安梅勅江, 保育における「木育」効果の評価: 子育て力を支える専門技術, 日本保育学会, 2012.5.4, 東京.

〔図書〕(計1件)

安梅勅江, エンパワメント科学入門 - 人と社会を元気にする仕組みづくり -, エンパワメント科学研究会, 2013, 120

〔その他〕

ホームページ等

多世代コミュニティ・エンパワメントに向けたコホート研究

<http://plaza.umin.ac.jp/~empower/cec/>

Community Empowerment and Care

[http://plaza.umin.ac.jp/~empower/cec/](http://plaza.umin.ac.jp/~empower/cec/index-e.html)

[index-e.html](http://plaza.umin.ac.jp/~empower/cec/index-e.html)

6. 研究組織

(1)研究代表者

安梅 勅江 (TOKIE ANME)

筑波大学・医学医療系・教授

研究者番号: 20201907

(2)研究協力者

伊藤 澄雄 (ITO SUMIO)

飛島村すこやかセンター・係長

奥村 理加 (OKUMURA RIKKA)

飛島村すこやかセンター・係長

澤田 優子 (SAWADA YUKO)

筑波大学・人間総合科学研究科・
研究員

田中 笑子 (TANAKA EMIKO)

筑波大学・人間総合科学研究科・
研究員

渡辺 多恵子 (WATANABE TAEKO)

日本保健医療大学・看護学科・
准教授

富崎 悦子 (TOMISAKI ETSUKO)

上智大学・看護学科・
助教

望月 由妃子 (MOCHIZUKI YUKIKO)

筑波大学・人間総合科学研究科・
大学院生

恩田 陽子 (ONDA YOKO)

筑波大学・人間総合科学研究科・
研究員

徳竹 健太郎 (TOKUTAKE KENTARO)

筑波大学・人間総合科学研究科・
大学院生

Amarsanaa Gan-Yadam

筑波大学・人間総合科学研究科・
大学院生

呉 柏良 (WU BAILIANG)

筑波大学・人間総合科学研究科・
大学院生

川島 悠里 (KAWASHIMA YURI)

帯広市・保健師

難波 麻由美 (NANBA MAYUMI)
青森県・保健師

松本 美佐子 (MISAKO MATSUMOTO)
二葉乳児院・看護師

杉田 千尋 (CHIHIRO SUGITA)
常総市・養護教諭

有岡 栞 (ARIOKA SHIORI)
学校法人希望学園 札幌第一高等学校・
養護教諭